

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4098000013		
法人名	医療法人 博愛会		
事業所名	グループホーム まごころ		
所在地	〒800-0364 福岡県京都郡苅田町大字唐松2781番地 Tel 093-434-6666		
自己評価作成日	平成30年11月18日	評価結果確定日	平成31年01月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号 Tel 093-582-0294		
訪問調査日	平成30年12月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日々の生活の中で自分が出来ることはできるように支援できない事があれば職員が一緒に行っている。自分にできる事があると達成感が生まれ、生きがいを持って毎日が楽しく生活が送れるように職員共に生活を送っている。畑には季節の野菜を作ることで季節を目で感じてもらい食べる事でも季節を感じてもらうことが出来ています。地域とのつながりも大事にしつつその人らしさを個性をいつまで持ち続けられるように大切にしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「まごころ」は、地域密着型事業所として、地域住民や行政、家族と信頼関係を築き、高齢者や認知症の相談窓口として、頼りになるグループホーム(定員9名)である。リビングルームは開放的で明るい陽射しが注し込み、利用者と職員の明るい笑い声と活気が溢れている。月に1回、手作りランチを通じて地域の方の参加で交流を深め、多様な行事で協力関係を築いている。介護実習生を受け入れ、若い世代との交流にも力を注ぎ、保育園児との触れ合いは、利用者の生きる力を引き出している。併設老人保健施設と、緊急時の対応や24時間の連携で、利用者の健康管理は充実している。畑で収穫された野菜や、旬の食材を使って利用者と共に作る食事は美味しく、食欲増進に繋げ、日に日に元気で明るい笑顔の利用者を見守る家族は喜びに包まれ、利用者や家族と深い信頼関係を築いている「グループホーム まごころ」である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、日常的に戸外へ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日、朝礼時に必ず理念と年度目標を唱和する事で職員全体の意識付けを行っている。法人内の研修で理念についての研修参加している。	介護サービスのあり方を示した理念を、見やすい場所に掲示し、職員は理念の意義や役割を理解して、毎日の申し送り時に理念と年度の目標を唱和し、日常介護の中で理念に基づいた介護が実践できているかを確認して、利用者本位の介護サービスを提供している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	グループホームでの行事に参加して頂いたり、地域の交流会に積極的に参加するようにしている。散歩の途中で地域の方と挨拶を交わしたり近隣の保育園との交流もある。	地域の行事や活動に、利用者と職員が参加し、ホームの催し物にも、地域の方や家族が参加し、相互交流の輪が広がっている。毎月一度の食事会には、地域住民や家族が参加して盛り上がり、近くの保育園児との触れ合いは、利用者の楽しみなひと時である。また、民生委員が定期的に来訪し、情報交換が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	定期的に関催される、運営推進会議にて認知症についてお話ししたり支援方法などを伝えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括、介護保険課、社会福祉協議会、区長、民生委員、認知症の会の会長、利用者、家族の参加で意見交換でサービス向上につなげられるようにしている。	会議は2ヶ月毎に定期的に関催し、ホームの運営や取組み、ヒヤリハット、事故等を報告し、参加委員からは、質問や要望等が提案されて話し合い、ホーム運営や業務改善に反映させている。毎回家族の参加が多く、家族の意見や心配な事等を話し合い、充実した会議になっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には介護保険課、地域包括、地域福祉課に参加してもらうことでGHの日常の事を伝えたり何でも相談するようにしている。分からない事があれば介護保険課、地域包括に電話し相談している。	運営推進会議に、行政や地域包括支援センター職員が出席し、ホームの現状を理解して、アドバイスや情報提供を受け、協力関係を築いている。また、管理者は、行政窓口にて介護の疑問点や困難事例、空き状況、事故等を相談し、行政と連携を図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全体で身体拘束をしないケアについて理解している。身体拘束適正委員会にて身体拘束について検討し拘束しないケアを目指している。	今年度から身体拘束の職員会議が義務化され、内部研修会で身体拘束の具体的な事例を挙げて検証し、言葉遣いや薬の抑制も含めた身体拘束が、利用者に与える影響について話し合い、職員一人ひとりが理解して身体拘束をしない介護サービスの提供に取り組んでいる。玄関は日中は開放し、職員の見守りで利用者が自由に出入りしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内での定期的に行われる研修には全職員が参加し外部での研修にも積極的に参加し事業所内でも定期的に虐待について話す機会を作り日常から虐待を見逃さないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護、成年後見制度についての研修に参加することで意識を持ち、法人内にある地域包括から学べる流れもできている。いつでも関係している者たちで話し合い、活用できるように努めている。	現在、成年後見制度活用の利用者がいるので、職員は、制度についてある程度理解し、資料やパンフレットを用意して、利用者や家族から相談があれば、制度の内容や手続きについて説明し、関係機関に橋渡し出来る体制を整えている。また、研修会に参加したり、法人内地域包括支援と情報交換できる体制が確立している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族には不明点が残らなように、十分な説明を行う事で理解、納得が得られているが利用者の中には理解が得られない事もある。ご家族、利用者に時間がかかっても、分かりやすく説明し理解して頂けるようにしている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には不明点が残らなように、十分な説明を行う事で理解、納得が得られているが利用者の中には理解が得られない事もある。ご家族、利用者に時間がかかっても、分かりやすく説明し理解して頂けるようにしている。	職員は、家族面会や運営推進会議参加時に話し合う機会をつくり、利用者の健康状態や暮しぶりを報告し、家族の意見や要望、心配な事を聴き取り、ホーム運営や利用者の日常介護に反映出来るように取り組んでいる。また、話し合う機会の少ない家族には、ホーム便りや利用者の近況を送付し、電話で意見や要望を聴きとっている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ご家族の訪問時に意見・要望が聞けるようにしている。運営推進会議の中で必ず、ご家族からの意見が言えるように時間を設けている。意見・要望が出た時には反映できるようにしている。	職員全員参加の会議を毎月定期的に関催し、管理者は会議が何でも話し合える雰囲気にして、職員の意見や要望、アイデア等ががてス案され、活発な意見交換の場になっている。また、毎日の申し送り時に、職員の気付きや心配な事を職員間で話し合い、管理者に相談し、解決に向けて取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人内での統一基準に基づいている。法人全体で職場環境の改善に努めている。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用・募集にあたっては、制約等設けていない。職員の特徴を活かして、やりがいにつなげている。	職員の休憩時間や勤務体制、希望休に柔軟に配慮し、職員一人ひとりがリフレッシュしながら働ける就労環境を整えている。管理者は、職員の特長や能力を把握し、適材適所の役割分担を行い、職員が生き生きと働ける職場を目指している。また、外部研修受講や、資格取得のためのバックアップ体制を整え、働き易い職場である。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	利用者への接し方、言葉使い、コミュニケーションなど人権を尊重できるように努めている。人権擁護に関する研修にも参加して勉強している。	利用者の人権について、研修会や職員会議の中で話し合い、利用者を持っている個性や生活習慣を把握して、声掛けや対応に注意し、利用者がホームの中で、安心して暮らせる環境を目指している。また、理念を常に振り返り、理念に基づいた介護の実践を目指している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員自ら積極的に研修に参加できるようにしている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同地区のグループホームを見学したり、GH連絡協議会に参加し、意見交換を行っている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者が安心できるように環境を作り、自分から何でも話せるように努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の気持ちや要望を聞き、アセスメントを行っている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	同法人内の支援相談員、包括職員、看護師、リハビリ職員と連携をとり、必要としている支援を見極め、他のサービス利用の必要性があれば検討している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の出来る事、出来ない事を理解し、日常生活の中で自分の事が出来るように支援し、職員と一緒に毎日の暮らしが送れる関係性を作っている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の訪問時には本人と家族が穏やかな時間が過ごせるように配慮している。定期的に家族と一緒に外出できる機会を作ったり、ホームでの行事に参加して頂き支えあう関係性を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者が関わってきた人がホームに訪問しやすいような環境を作っている。併設している、保険施設通所には出向き交流ができるようにしている。馴染みの美容院病院等にも行けるようにしている。	利用者が、長年築いてきた人間関係や、地域社会との関わりが途切れないように取組み、利用者の知人や友人の面会があれば、ゆっくり寛げる場所を提供し、いつでも面会が出来る支援している。行きつけの美容院や病院受診に職員が同行支援を行っている。また、併設事業所との交流は利用者の楽しみなひと時である。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いに楽しく笑って過ごせるように、テーブル配置を考えたり、自分から話す事が苦手な利用者には職員が間に入ることで、自分から話しができるように努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院、施設への入院、入所となっても面会に行ったり、相談員と情報の共有や状況把握をするようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者がこれまで生きてきた過程の中で得意だった事などを把握することで、ひとりひとりが生きがいを持って生活の中に取り組みられるようにしている。	職員は日常会話の中から、利用者の思いや意向を把握し、アセスメントに記録し職員間で情報を共有し、日常介護に反映させている。意向表出の困難な利用者には、家族に相談し、職員が諦めないで利用者寄り添い話しかけ、表情や仕草から、利用者の思いを汲み取っている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人、家族から話を聞き、生活歴を理解している。本人と関わってきた物(ケアマネ、包括、地域など)からも情報を得るようにしている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントをしっかりと行い、本人の心身状態を把握し出来る事、出来ない事を理解している。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にモニタリングを行い、本人の状態に変化があれば本人、家族、関わっている者達で話し合い、介護計画書を作成している。	利用者や家族が担当者会議に参加して、訪問看護師、ケアマネージャーと意見交換し、利用者本位の介護計画を定期的に作成している。また、モニタリングやカンファレンスの中で、介護計画の実施状況や、目標達成状況を確認し、その結果を踏まえて、介護計画の見直しを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	身体の状態変化やいつもと異なった言葉などは詳しく個人記録に記入、毎日の申し送り時に情報共有をしている。別に申し送りノートもあるため、その日伝えられない職員にはノートを通じて共有をできるようにしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	定期的な外出、病院の付き添い、お盆やお正月の帰宅等、本人、家族の要望に応じて柔軟な支援やサービスができるようにしている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者がこれまで関わってきた地域資源を家族、地域包括、地域住民から情報を得る事で本人が安全で豊かな暮らしができるように努めている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望するかかりつけ医を受診できるようにしている。本人、家族の同意を得た上で急変時には囁託員、協力病院の指示を受けている。必要に応じて往信をしてもらっている。	入居時に利用者や家族と話し合い、希望を優先してかかりつけ医の受診を支援している。協力医療機関による往診体制と看護師のきめ細かな観察力で早期発見、治療に取り組み、24時間安心して任せられる医療連携が整い、家族には、受診結果をその都度報告し、利用者の医療情報法を共有し、家族の安心に繋げている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内に看護職はいないが、法人内の看護師と日々の情報を共有しながら相談に乗ってもらって受診や処置が受けられるようにしている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には担当医から情報を得られるように、定期的に面会に行き看護師やソーシャルワーカー、リハビリスタッフからも情報を得られるようにしている。できるだけ早い段階での退院ができるように、ホーム内での体制も整えられるようにしている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化及び看取りに関する指針についてしっかりと本人、家族に説明し本人と家族が話し合えるようにしている。囁託医、かかりつけ医、関係している者達で連携を取り、チームでの支援ができるようにしている。	契約時に利用者や家族に、ホームで出来る支援と、病院でしか出来ない支援について説明し、了承を得ている。利用者の重度化が進むと、家族と連絡を取りながら、主治医を交えて話し合い、今後の方針を確認し、関係者で方針を共有し、ぎりぎりまでホームで暮らせる支援体制に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習、AED講習を全職員が受けている。急変時のマニュアルもいつでも回覧できる場所に置いている。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を消防署、地域の区長、地域住民にも参加してもらい行っている。日中、夜間帯の訓練をそれぞれおこなったかを	年2回昼夜想定避難訓練を実施し、消防署や地域住民の協力と参加を得て、通報装置、消火器の使用方法を確認して、非常口、避難経路、避難場所を確保し、利用者全員が安全に避難出来る訓練を行っている。また、地域の防災訓練にも職員が参加し、相互防災協力関係を築いている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	これまでの生活歴を把握したうえで、個人に合った接し方話し方を行いコミュニケーションができるようにしている。	利用者のプライバシーを守る介護サービスについて、職員間で話し合い、トイレや入浴介助では、利用者のプライドや羞恥心に配慮したサービス提供を目指している。また、利用者の個人情報や職員の守秘義務については、管理者が職員に説明し、情報漏洩防止の徹底に取り組んでいる。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の話しをまず全部聞くそれからその中でその思いをくみ取ったり、希望が聞けるようにしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	何気ない利用者同士の会話の中からその日をどう過ごしていきたいのかなど希望が聞けるように努めている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員と一緒にその日着る服を決めたり、くしや鏡、髭剃りなど分かりやすい場所に置くことで自分から身だしなみを気にしたりおしゃれを楽しんでもらえるようにしている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の食事の配膳、片づけは職員と一緒にいる。職員も同じテーブルで食事をする中で楽しく過ごせるようにしている。	食材の買い出しや料理の下拵え、配膳、後片付け等を利用者と職員が一緒に行い、利用者の残存能力に合わせて作って食べる楽しさを感じてもらっている。利用者と職員は、同じテーブルに座り、楽しい会話の中で、食欲増進に繋げ、利用者の健康管理は充実している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量、水分量をチェックし把握している。嚥下、咀嚼、状態の変化に応じて、法人内の管理栄養士に相談しアドバイスをもらっている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨き、口腔ケアを行っている。義歯を毎日洗浄、消毒している。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの一日の排泄パターンを把握し、トイレ誘導している。できるだけトイレに行き、便座に座って排泄できるように支援している。一人ひとりに合ったオムツも検討している。	利用者が重度化してもトイレで排泄することを基本とし、職員は、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、タイミングを見ながら声掛けや誘導を行い、利用者のプライドや羞恥心に配慮した排泄の支援に取り組んでいる。また、オムツやリハビリパンツ、パットの使用方法を研修し、利用者が快適に暮らせるように支援し、オムツ使用の軽減にも取り組んでいる。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの排便状態を把握し便秘の時にはかかりつけ医、嘱託医に相談し、法人内の看護師に指示をもらっている。原因は何かを知るため個人記録や職員間の情報を共有することで原因などを探れるようにしている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個人の希望時間での入浴は出来ていないが、順番の希望には添えるようにしている。入浴剤を使う事で入浴を楽しんでもらえるように工夫をしている。	利用者の希望や体調に配慮して、楽しい入浴が出来る支援に取り組んでいる。湯船にゆっくり浸かってもらい、皮膚などの健康チェックをしながら、清潔保持に努めている。また、入浴は、利用者と職員が一对一でゆっくり話が出来る貴重な時間と捉え、利用者の思いや意向を聴きだしている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者が休みたい時に休めるように、お昼寝時間や就寝時間は決めていない。就寝前は、暑さや寒さを本人に確認してもらって快適に眠れるように努めている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院から処方された薬の説明書を読む事で、全職員が理解している。病状の変化があった場合は、医療機関や薬剤師に状況を伝え、指示を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者のこれまでの生活歴を把握し得意な事や慣れ親しんだことを日常生活の中で自らが楽しんで行えるように支援している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望に沿った外出は出来ていないが、季節季節のお花見などは行けるようにしている。ご家族にも一緒にお出かけ出来るように案内をしている。	天気の良い日を利用して散歩や、食材の買い出しに出掛け、季節の移り変わりを利用者の五感で感じてもらい、気分転換に繋げている。外出レクリエーションには、家族にも声掛けし現地集合して楽しい時間を過ごし、利用者の生きがいに繋がる外出支援に取り組んでいる。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出した時に本人にお金を持ってもらい、好きな物を選び、計算、支払いまでできるように支援している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が家族などに電話したいとの希望がある時は本人に電話を渡している。ダイヤル出来ないときは職員がかわりに行っている。はがきや便箋を準備する事でいつでも利用者が書けるようにしている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングからは畑が見え、玄関には花があり季節の野菜、花を楽しむ事が出来日当たりも良い事で居心地良く過ごせる環境となっている。	リビングルームは、照明や音、温度や湿度、換気にも配慮し、利用者は窓から畑の作物の成長を眺めたり、畑に椅子を出して楽しみ、変化のある暮らしに繋げている。また、季節毎の飾りをして、アットホームな雰囲気の中で、仲の良い利用者同士が談笑したり、日向ぼっこでコミュニケーションを取りながら、明るくて清潔な共用空間である。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畑に椅子を出してそこで過ごしたり、玄関前の花壇を見ながら、利用者同士が楽しく過ごせるようにしている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた家具や慣れ親しんだ物を持ち込むことで、出来るだけ環境を変えずに本人が居心地良く過ごせるようにしてもらっている。	入居前に利用者や家族と話し合い、利用者のお気に入りの筆筒や寝具、仏壇や鏡、家族の写真や生活必需品を持ち込んで配置して、生活環境が急変しないように配慮し、自宅と違和感のない環境の中で、利用者が安心した暮らしが出来るように工夫し、清掃が行き届いた居心地の良い居室である。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の出来る事出来ない事を把握し、できるだけ毎日が自立した生活が送れるように出来るところまで見守り、出来ない事を一緒に行うようにしている。		